



校報

水糸者

No. 1306

元年度・第165号

種小の学びの風景

…「得意な子が満足し、苦手な子がわかる授業」…

何かと慌ただしい年度末も、種小っ子はしっかりと勉強や運動に励んでいます。
そんな種小っ子の様子を紹介します。

粘土をこねる理科の学習

3年生の教室をのぞいた時、子ども達が楽しそうに粘土をこね回し球を作り、それを秤にかけ、重さを計測していました。

黒板にはこの時間の学習課題「物のおき方や形をかえると重さはどう変わるのだろうか。」と書かれていたので、この秤と粘土の理由がわかりました。子ども達は、大小たくさんの粘土のこね、それを友達と秤にかけ嬉々として学習に励んでいました。3年生の理科の「物の重さしらべ」での学習のワンシーンでした。

黒板だけの授業だと、理解や定着、興味が十分でない場合もありますが、この学習のように具体物を操作させ、個々に『予想』させ、友だちと『関わらせ』、五感も使いながら『試し』、『結果』を導き、それを『発信』する問題解決型サイクルの学習・発信型学習だと、どの子も嬉々として学び、どの子にも満足な時間となっています。



先日、校長室に来た1年生は、国語の説明文で学んだ「まず～。次に～。終わりに～」という話し方がしっかりとできていました。そのような話し方も「読解力」の養成につながっていきます。教室で学んだことを「発信」することで、学力は定着していきます。

1年生でも2年生でも具体物を使った学習（作業・操作活動）を通して、学習への理解と興味を高めていました。



縦割り班で心を繋ぐ種小っ子

本校では6年生をリーダーとして各学年の子ども達で班を構成する『縦割り班』で、清掃活動や縦割り班対抗長縄跳び大会をはじめ、多くの児童会行事でこの縦割り班活動を活用しての活動を行ってきました。この活動を通して、6年生はリーダーとしての自覚と責任を、下級生は共に働く事で、友達を大事にしながら活動する協働の心、最後まで務めを果たす心を育む事を主な目的として行っています。1年生から6年生までの子ども達が混じり合った『縦割り班(全28班)』での学校生活で心と体を耕し続けてきた種小っ子は、2月21日の校報1305号「感謝の気持ちを伝えよう」でも紹介したように、この1年間の子どもたち同士の心の交流が良く図られていた事が良く伝わってきました。

この時期になり子ども同士がますます仲良く明るく学校生活を送る種小っ子の姿はうれしいものです。学期末も種小っ子はますます生き活きと活動です！

19日の縦割り班遊びの様子



縦割り班活動も1年も経つと、各グループが1つの家族のように仲良くなってきます。
19日の全校縦割り班遊びでは28班全てから輝く笑顔と大きな歓声が響いていました。



縦割り班清掃でも、6年生のリーダーを中心とした、1つの家族のように心を1つにして清掃を行っています。

どの家庭にもたくさんの子どもがいた、兄弟げんかが日常だった昭和時代は、人との付き合い方を自然に学んでいたのですが、少子化の現在では、学校で意図的に異年齢活動を体験させなければいけない時代となっています。

縦割り班活動を通して、社会の中でより良く生きていくために必要な「人との関わり」を学び、身に付けていく種小っ子です。